

村のがまだしモン^{No.19}

本村で活動している
「※地域おこし協力隊」のメンバーをご紹介します。

※人口減や高齢化が進む地方で、都市部の人材の定住・定着を促し活性化を図る目的で、2009年度に創設。任期は最長3年で、年間の報酬と活動経費は、国から支給される。



はま さき ゆう じ
浜崎 雄治さん

ホアン ヤ ティン
黄雅婷さん



自己紹介をお願いします。

熊本市から来ました。
結婚式場や懐石料理店で料理の仕事、その他ケーブルテレビ会社に13年勤務、また料理の仕事がしたく10年ほど前に戻って来ました。

台湾から来ました。
大学院で観光管理を勉強し、華語ツアーコンダクター、華語ガイド試験、地震博物館のガイド試験に合格。東京の観光バス会社で働いていました。

南阿蘇村地域おこし協力隊に応募された理由は。

以前から南阿蘇に住みたいとの思いがあり、地域おこし協力隊の募集を見つけました。業務内容も食の商品開発プロジェクトで、料理の経験を生かせると思い応募しました。

ある日、南阿蘇村地域おこし協力隊インバウンド対策プロジェクト業務の募集を見つけ、私の専門と興味があり応募しました。

仕事内容を教えてください。

主に白水温泉瑠璃の業務補助と、南阿蘇村の特産品を使ったメニュー考案をしています。

インバウンド対策プロジェクト業務の仕事をしています。外国人の目線から独特な文化・自然体験活動を作り、村民の知恵を借り、やさしく、住みやすい観光環境にしたいと思います。

南阿蘇村の住み心地はどうか、活動を通じて、どのような村にしたいですか。

昔から南阿蘇村の景色がよくてドライブに来ていました。その景色が毎日見られて楽しくて仕方ありません。四季がはっきり感じられるのが魅力の一つです。医療・交通の部分にやや不安を抱えていますが、住み続けるには日常生活に直結する問題解決が必要だと思います。

南阿蘇の住み心地はエクセレントだと思います。毎日この綺麗な景色と一緒に生活できて、最高です。旅行は体験型が主流になりました。村民と交流し、行きたい・住みたい環境を構築したいと思います。

取材者 **笠野 眞喜** 委員

編集後記

震災から4年が過ぎました。今年の夏にはJR豊肥線が全線復旧し、秋には国道57号現道、そして、来年春には「新阿蘇大橋」の開通と明るいニュースもありますが、新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るっています。村民の皆さまも予防には最善を尽くしていただきたいです。また、農家の皆さまは田植えの時期を迎え、忙しい毎日を送られていることでしょう。休むときはしっかりと休み、免疫力が落ちないようにご注意ください。

丸野 健一郎

議会広報特別委員会

委員長 丸野健一郎
副委員長 太田 吉浩
委員 笠野 眞喜
〃 今村 竜喜
〃 栃原 辰郎
〃 今村 輝宏

発行責任者

議長 荒牧 俊一